

www.nichigaku.co.jp

エコアクション21
環境経営レポート 2020年

活動期間：2019年4月～2020年3月

ごあいさつ

コンピュータや携帯電話、ネットワークの技術革新など、変化の速い時代にあつて、どんなにデジタル技術が進歩しても、人と人が向き合つて、言葉や文字、あるいは絵図でお互いの考えや思いを伝え合う、アナログ的なコミュニケーションは生き続けます。そういう意味で黒板・ホワイトボードは「永遠のメディア」のひとつであると、私たちは考えています。

子供のころからなじんできた、教室の黒板・掲示板を原点に、家庭やオフィスで、人と人の情報共有を高めるホワイトボード、ボードに書いた内容を紙やデータで保存できるコピーボード・電子黒板、そして未来に向けた次の製品へ。お客さまに快適なコミュニケーションを提供するため、日学はいつも新しい製品づくりに取り組んでいます。

企業活動を通じて国や地域社会、ひいては世界の平和と進歩発展に貢献する会社、社員ひとり一人が働くことに喜びとやり甲斐、そして誇りを持てる会社を目指し、これからもより一層努力して参ります。今後も日学にご期待ください。



日学株式会社
代表取締役社長 吉田朋弘

目次

2017年版

項目	ページ
1.環境経営方針	1
2.事業規模・全社概要	2～3
3.全社組織図及びEA21拡大計画	4
4.環境経営目標及び実績	5①～②
5.次年度以降の中期環境経営目標	6
6.年間環境経営活動・実施	7～8
7.年間活動計画	9～10
8.活動の取組結果と評価、次年度の取組内容	11
9.我社の環境配慮製品への取り組み	12
10.環境に配慮した生産品目の拡大	13
11.法規制遵守状況及び資格等のリスト及び 環境関連法規への違反、訴訟の有無	14
12.代表者による全体の評価と見直し・指示	15



平成30年
認証10周年「感謝状」

環境経営方針

基本理念

当社は経営理念に基づく全ての企業活動において、環境保全が世界的重要なかつ緊急課題であることを認識し、環境保全への貢献を経営の重要課題として行動します。

行動指針

1. 環境影響を考慮した資材・備品調達に努め、環境にやさしい製品の開発・製造・販売を推進します。
2. 資源・エネルギーを効率的に活用し、生産活動における環境負荷を低減します。
3. 環境関連の法規制等を遵守します。
4. 環境マネジメントシステムを定期的に見直し継続的改善に努めます。
5. この環境経営方針を社内に掲示し全社員に周知させるとともに環境活動レポートを作成し社内外に公表し、社員の意識を高め社会全体の環境保全活動に貢献します。

制定日 2007年6月5日

改定日 2019年4月1日

日学株式会社

代表取締役社長

吉田 朋弘

改版:5版

事業規模・全社概要 1 <http://www.nichigaku.co.jp>

1 事業者名

日学株式会社（設立：昭和32年9月12日） <http://www.nichigaku.co.jp>
代表取締役社長 吉田 朋弘

2 所在地

本社	東京都品川区大井1-49-15 YK-17ビル5階
静岡工場	静岡県藤枝市八幡647
東京デポ	東京都大田区西糀谷2-15-3
埼玉営業所	埼玉県熊谷市榎町56-1

仙台支店 宮城県仙台市若林区六丁の目中町 5-30 A
札幌営業所 札幌市東区北四十一条東7丁目3-18-305
大阪支店 大阪府大阪市東淀川区豊新1-21-12
名古屋営業所 愛知県名古屋市西区城西4-28-18 清光ビル1F
金沢営業所 石川県金沢市松島2-107
福岡営業所 福岡県那珂川市中原2-156

※上記点線内は認証登録サイト

エコアクション21認証取得 拡大計画

2021年度以降順次拡大：各支店・営業所(国内) 追加認証・登録予定

3 事業内容

電子黒板、黒板(黒板JIS含む)、ホワイトボード、掲示板、案内板、その他
応用製品の設計・開発、製造、販売、据付け及び付帯サービス

4 資本金及び売上高

資本金 5,000万円 売上高 208,017万円(2019年度)

5 従業員及び生産活動規模

従業員 81名(本社ビル・東京デポ 36名、静岡工場・品質管理部・設計開発室43名、埼玉営業所 2名)
＜静岡工場・品質管理部・設計開発室＞(生産拠点)

活動規模	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
生産量	ton	412	362	390	361	362	399	406	397
従業員	人	42	42	39	39	42	42	44	43
床面積	m ²	7,179	7,179	7,112	7,112	7,112	7,112	7,112	7,112

6 日学(株)関連会社

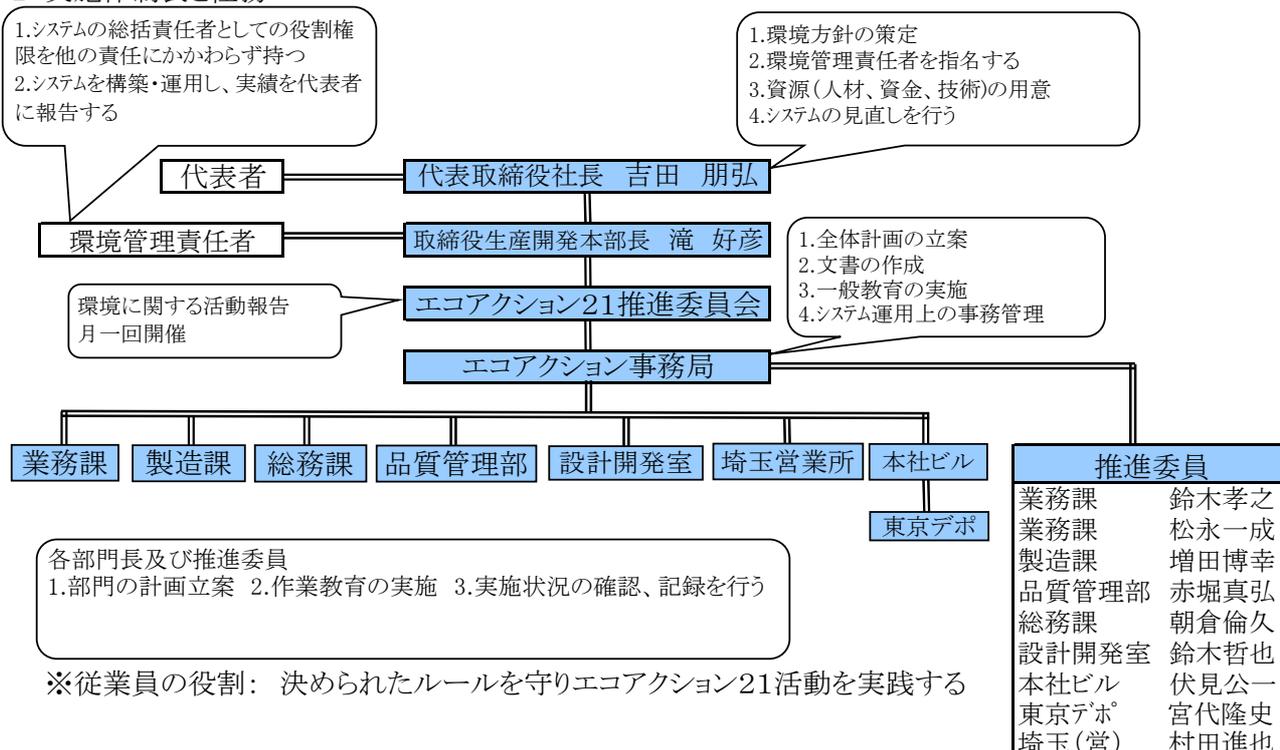
日学ホールディングス(株) 東京都品川区南大井3-8-7
日学サポート&サービス(株) 東京都品川区南大井3-8-7
藤木工業(株) 福岡県福岡市南区野多目6-3-4
廈門日学文教用品有限公司 廈門市集美区広業南路11号 3B1、3B2单元

事業規模・全社概要 2

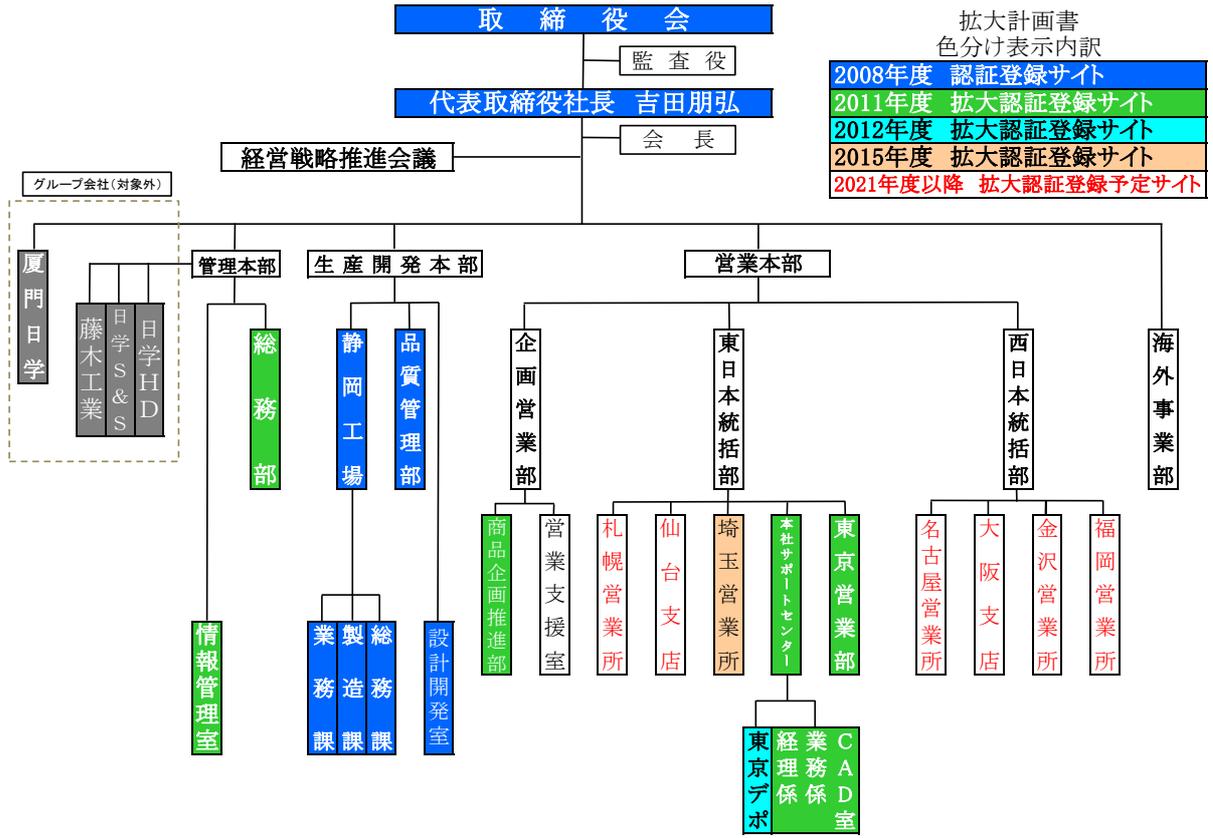
1 環境管理関係の責任者及び担当者

環境管理責任者	静岡工場 取締役生産開発本部長	滝 好彦
事務局	静岡工場 総務課	朝倉倫久
連絡先電話番号	054-644-1335	FAX 054-644-0547

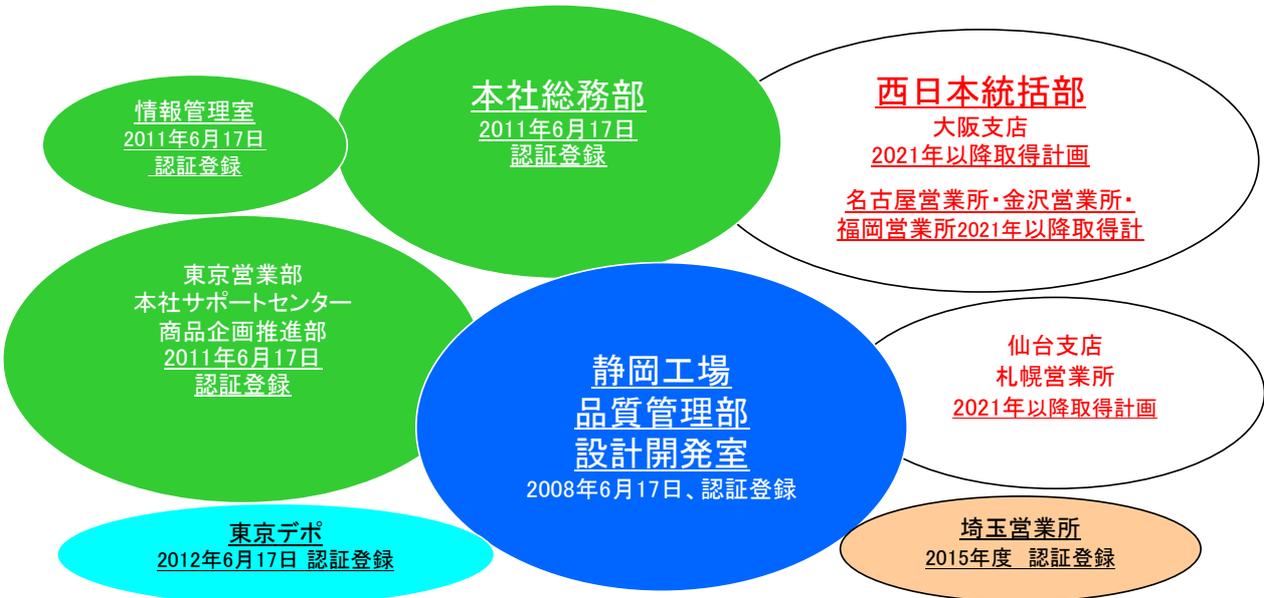
2 実施体制表と任務



全社組織図及びEA21拡大計画書



拡大認証取得計画



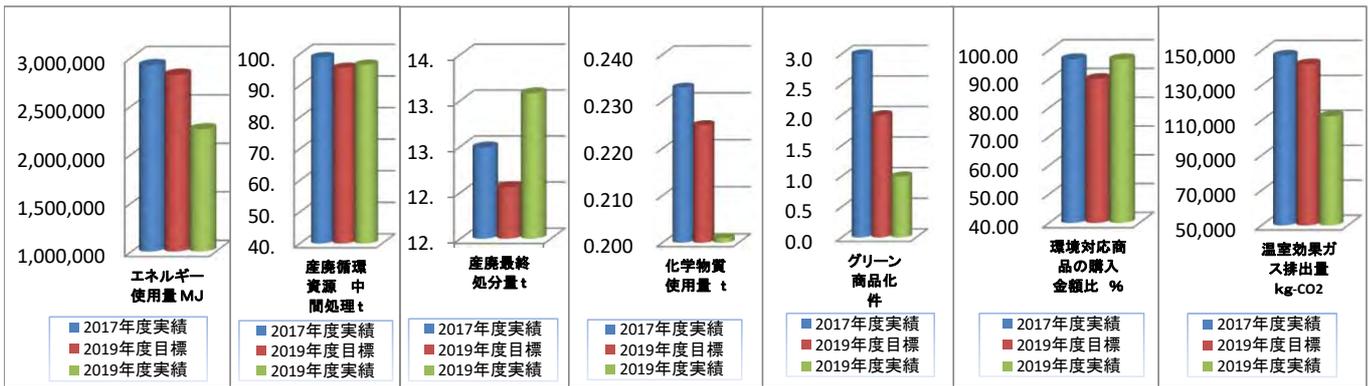
2019年度 環境経営目標及び実績

静岡工場・品質管理部・設計開発室

事業活動	2017年 基準年度 実績	2019年				
		目 標		実績	目標 対比	2017年 対比
		数値	2017年対比			
①エネルギー使用量						
エネルギー使用量 (単位: MJ)	2,922,032	2,823,527	▲3.4%	2,259,607	▲20%	▲23%
②廃棄物排出量・最終処分量						
循環資源・中間処理 (単位: ton)	98.93	95.59	▲3.4%	96.56	+1%	▲2%
最終処分量 (単位: ton)	12.49	12.06	▲3.4%	13.08	+8%	+5%
③水使用量						
上 水 (単位: m ³)	784.5			538		▲31%
③総排水量						
公共用水域 (単位: m ³)	784.5			538		▲31%
④化学物質						
使用量 (単位: ton)	0.233	0.225	▲3.4%	0.201	▲11%	▲14%
⑤グリーン商品化						
グリーン商品化への配慮 (単位: 件)	3	2	▲1.0件	1	▲50%	▲67%
⑥環境対応商品の購入						
消耗品・事務用品金額ベース対比 (単位: %)	96.9	90.0	▲7.1%	96.9	+8%	+0%
■温室効果ガス排出量						
(単位: kg-CO ₂)	147,138	142,178	▲3.4%	112,418	▲21%	▲24%

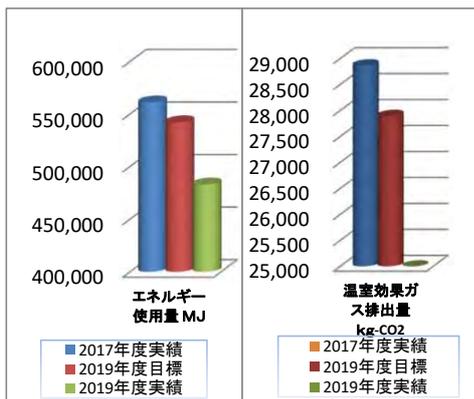
※1・温室効果ガス排出量の算出は、中部電力の2018年排出係数(2019年公表)0.472Kg-CO₂/kWhを用いた。

※2・「水使用量」「総排水量」は生産活動に関わらない項目の為、目標を設定しない管理項目としています。



本社

事業活動	2017年 基準年度 実績	2019年				
		目 標		実績	目標 対比	2017年 対比
		数値	2017年対比			
①エネルギー使用量						
エネルギー使用量 (単位: MJ)	561,129	542,213	▲3.4%	483,028	▲11%	▲14%
■温室効果ガス排出量						
(単位: kg-CO ₂)	28,870	27,897	▲3.4%	24,126	▲14%	▲16%

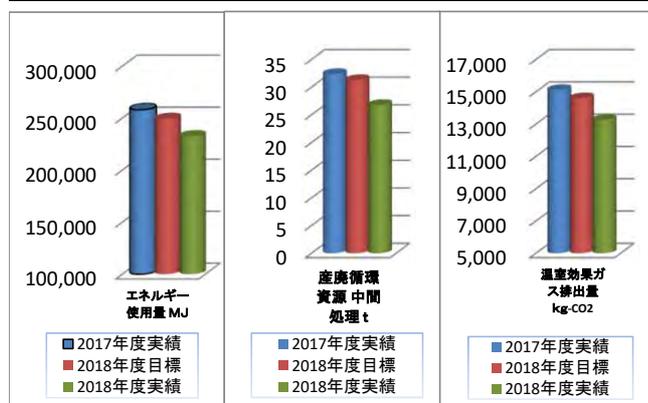


温室効果ガス排出量の算出は、東京電力の2018年排出係数(2019年公表)0.462Kg-CO₂/kWhを用いた。

2019年度 環境経営目標及び実績

東京デポ

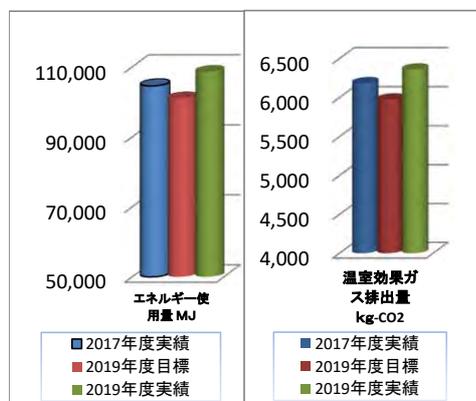
事業活動	2017年 実績	2019年				
		目 標		実績	目標 対比	2017年 対比
		数値	2017年対比			
①エネルギー使用量						
エネルギー使用量 (単位: MJ)	258,021	249,323	▲3.4%	232,622	▲7%	▲10%
②廃棄物排出量・最終処分量						
循環資源・中間処理 (単位: ton)	32.40	31.31	▲3.4%	26.81	▲14%	▲17%
■温室効果ガス排出量						
(単位: kg-CO ₂)	15,118	14,608	▲3.4%	13,260	▲9%	▲12%



温室効果ガス排出量の算出は、東京電力の2018年排出係数(2019年公表)0.462g-CO₂/kWhを用いた。

埼玉営業所

事業活動	2017年 実績	2019年				
		目 標		実績	目標 対比	2017年 対比
		数値	基準年対比 2017年対比			
①エネルギー使用量						
エネルギー使用量 (単位: MJ)	104,594	101,068	▲3.4%	108,624	+7%	+4%
■温室効果ガス排出量						
(単位: kg-CO ₂)	6,187	5,978	▲3.4%	6,362	+6%	+3%



温室効果ガス排出量の算出は、東京電力の2018年排出係数(2019年公表)0.462Kg-CO₂/kWhを用いた。

次年度以降の中期環境経営目標

本社、東京デポ、静岡工場・品質管理部・設計開発室、埼玉営業

項目		単位	基準年度	目 標				
			2017年度	2018年度	2019年度	評 価 2017比	2020年度	
イン プ ット	エネルギー使用量	目標	MJ 3,845,776	3,780,398	3,716,131		3,652,957	
		実績		3,333,216	3,083,881	○		
	物質使用量	目標	t 399.84	393.04	386.36		379.79	
		実績		406.84	396.58	○		
	水使用量	目標	m ³ 785	-	-		-	
		実績		607	538	○		
ア ウ ト プ ット	温室効果ガス排出量	目標	t 197.31	193.96	190.66		187.42	
		実績		168.00	156.17	○		
	廃棄物循環資源・中間処理量	目標	t 131.33	129.10	126.90		124.75	
		実績		126.49	123.37	○		
	廃棄物最終処分量	目標	t 12.49	12.28	12.07		11.86	
		実績		13.57	13.08	×		
	総排水量	目標	m ³ 785	-	-		-	
		実績		607	538	○		
	化学物質使用量	目標	t 0.233	0.229	0.225		0.221	
		実績		0.205	0.201	○		
	グリーン調達品購入率	目標	% 96.9	90.0	90.0		90.0	
		実績		95.1	96.9	○		
グリーン商品化	目標	件 3	2	2		2		
	実績		4	1	×			

【備考】

- ・ 2017年実績を基準に新たに中期環境経営目標を設定。
- ・ 「エネルギー使用量」「温室効果ガス排出量」「廃棄物循環資源・中間処理量」「廃棄物最終処分量」の4項目は全サイト合算し評価していたが、組織拡大による営業店増加に伴い、絶対値による管理方法に変更とした。（生産本部は、従来、生産高対比による数値算定方法を採用した。）
- ・ 「水使用量」「総排水量」は生産活動に関わらない項目の為、目標を設定しない管理項目とした。
- ・ 温室効果ガス排出量は、静岡工場については管轄する中部電力排出係数0.472kg-CO₂/kWh、本社・東京デポ・埼玉(営)については東京電力エナジーパートナー排出係数0.462kg-CO₂/kWhを用い算定。

環境経営活動1

購入電力削減 ②エアコン適正温度設定
扇風機併用で暑さ対策を実施(本社)



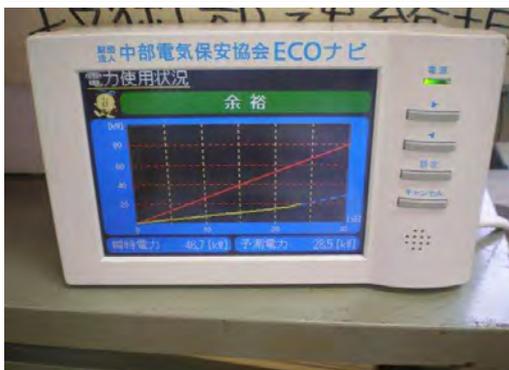
購入電力削減 ③スーパークールビズ実施



各取組みの啓蒙表示及びデータ開示(本社)



購入電力削減①②
デマンド監視機「ECOナビ」にてピークカット(静岡)



一般・産業廃棄物の削減③
紙類の分別サンプルの掲示(静岡)



その他①防災訓練(静岡・流出灯油回収)



その他⑤環境資格者の養成
エコ検定にチャレンジ



環境経営活動2

環境上の緊急事態への準備・対応(本社)



環境美化活動(本社)



環境上の緊急事態への準備・対応(静岡)
 <ドラム缶転倒防止・土嚢袋・吸着剤>



エアコン コントロールスイッチ(本社)
 <冬季は設定温度を19℃の努力目標とした>



社会貢献の一環として
 エコキャップの回収をしております。



エコキャップ 受領書

日学(株) 総務本部 静岡
 ID: 66779
 当館: 本社
 住所: 東京都品川区大井1-49-15
 FAX番号: 03-6429-2520

2016/04/21

エコキャップ回収活動
 〒114-8621 東京都品川区大井1-49-15
 日学(株)総務本部
 TEL: 03-6429-2524
 FAX: 03-6429-2520
<http://ecocap.jp>

今回受領個数: 5,805 個	累計個数 (2016/03/31時点): 16,748 個
受領日: 2016/03/31	重量: 13.50kg
個数: 5,805 個	字数: 58

ご提供いただいたエコキャップは再生プラスチック原料として製造し、医療支援・ワクチン支援や障がい者支援、子どもたちへの環境教育等、様々な社会貢献活動に役立てられています。
 ご協力ありがとうございます。皆様のご協力を大切に致します。

● 累計のエコキャップをゴミとして焼却した場合はCO2発生量 → 125.67kg
 ※キャップ1kgで約11kgのCO2削減効果があります

第8回寄付先 ブータンヘルス・トラスト・ファンドからのレポート

ブータンヘルス・トラスト・ファンドより、寄附したエコキャップが医療従事者からの寄付による医療物資がもたらしたご寄付いたしました。

国産による医療物資の確保は、公衆衛生に不可欠な要素ですが、若い世代から徐々に西洋医療を受け入れるという考えに変化しています。さらに、国産の医療、保健に合った女性への医療教育が不可欠です。

詳しくは、エコキャップ推進活動ホームページをご覧ください
http://ecocap.jp/report_20151225.html

※詳細の寄附活動は活動中HPの「キャップ回収実績」に、掲載させて頂きます

エコキャップ推進協会はJマークを一新し、環境NPOとして活動を強化してまいります。

環境経営計画・実施

< 上段: 計画 下段: 実施済 未実施 半実施 >

2019/4/1～2020/3/31

取組目標	取組目標	実施項目	該当部署				期 間											
			静岡工場・品質管理部・設計開発室	本社	東京デポ	埼玉営業所	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
購入電力の削減	①こまめに消灯・減灯	・職場別消灯確認	○															
	②エアコンの適正使用	・職場別使用状況確認		○	○	○												
	③クールビズ・ウォームビズの実施	・該当期の啓蒙活動																
	④コンプレッサの適正使用	・職場別エアー漏れパトロール確認																
化石燃料の削減	①フォークリフト・社用車等のエコ運転	・職場別運転状況確認	○	○	○	○												
	②ジェットヒータ等の空運転の撲滅	・職場別使用状況確認																
	③自転車・徒歩・公共交通機関通勤奨励	・自主的実施者の確認		○	○	○												
	④運賃効率の向上	・売上げ対比																
水使用量の削減	①こまめに蛇口をしめる	・水漏れ及び節水表示の確認	○	○	○	○												
一般・産業廃棄物の削減	①コピー用紙の両面使用	・両面使用の啓蒙表示、使用状況確認	○	○	○	○												
	②封筒の再利用	・使用状況確認		○	○	○												
	③ゴミの分別・リサイクル活動	・ゴミ分別状況、確認		○	○	○												
	④不要パレットの廃棄削減	・月毎、低減状況把握する																
	⑤原板不良の低減	・品質会議にて、不良数、ロス金額の把握を行う																
	⑥産廃業者への処理依頼状況	・月毎、状況把握する(産廃マニフェストの確認)			○													
	⑦最終処分先の直接確認	・年1回			○													
	⑧産業廃棄物管理票交付状況報告書	・6月 自治体へ提出			○													
物化学	①PRTR物質の使用削減	・年3回 新接着剤の検討をする	○															

環境経営計画・実施

< 上段: 計画 下段: 実施済 未実施 半実施 >

2019/4/1～2020/3/31

取組目標	取組目標	実施項目	該当部署				期 間												
			静岡工場・品質管理部・設計開発室	本社	東京デポ	埼玉営業所	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
環境対応	①グリーン商品の購入	・環境対応製品の購入推進状況確認	○	○	○	○													
	②RoHs・G法環境製品の開発推進と環境アセスメントシートの活用	・環境対応製品の開発推進状況確認																	
	③再生材料の使用推進	・環境対応材料の導入推進(証明書等の確認)																	
	④グリーン製品販売	・環境に配慮した製品の販売促進			○														
その他	①教育	・有害物質の輸送、保管等に当たり事故時の汚染防止のための準備や訓練計画(10月)	○																
		・推進委員会 開催(Web会議含)		○	○	○													
		・推進委員会 開催(毎月始め全体朝礼にてエコバト報告)																	
	②工程改善合理化活動																		
	③予防処置提案件数		○																
	④環境情報	・年1回最新版の法規制情報確認		○	○	○													
	⑤環境資格者の養成	・エコ検定受験推奨																	
⑥環境対応設備の導入	・環境対応設備の検討(一定規模のLED照明器具への入替)	○																	

活動の取組結果と評価、次年度の取組内容

取組項目	活動の概要	部署 ※1	実施状況	評価と次年度の取組内容
購入電力の削減	①こまめに消灯・減灯	静岡	△	社員の意識はあるが、スイッチの場所が遠く、職場を離れる際消し忘れが一部ある表示方法の見直し検討
		本社・東京デポ・埼玉	○	全社員の意識が向上され、常に消灯等を実施している。
	②エアコンの適正温度設定	本社・静岡・東京デポ・埼玉	○	全社員の意識が向上された。周知・啓蒙・教育活動は継続している。
	③照明の適正化、自然光・風の利用	静岡	○	2Sパトロールにて、窓際への不要物立てかけをしないように指導継続する。
	④コンプレッサーの適正使用	静岡	○	エアー洩れの改善は出来た。電気使用量が高い為、工場内のエアー圧診断を行う。
⑤クールビズ・ウォームビズ	本社・静岡・東京デポ・埼玉	○	クールビズのみ実施。ウォームビズ個人レベルで対応。	
化石燃料の削減	①フォークリフト・社用車のエコ運転	静岡	○	急発進・急加速等、急のつく操作は控える。
		本社	○	運転日報で使用状況を明確化。アイドリングストップの励行。ハイブリット車への入替も実施した。
		東京デポ・埼玉	○	走行距離、ガソリン購入量で確認。
②ジェットヒーター等の空運転の撲滅	静岡	○	徹底されている。	
⑤自転車・徒歩通勤奨励	静岡	△	雨、夏場は厳しい為、徹底に欠けている、又夜帰宅時の安全についての検討が必要	
水使用量の削減	①こまめに蛇口をしめる	静岡	○	社員の意識は上がっている。
一般・産業廃棄物の削減	①コピー用紙の両面使用	静岡	○	意識をもって実施している。
	②排出抑制	静岡	○	意識をもって実施している。
	③封筒の再利用	静岡	○	意識をもって実施している。
	④ゴミの分別・リサイクル活動	静岡	○	分別実施にて効果が出ている
	⑤不要パレットの廃棄削減	静岡	○	仕入れ先へ継続指導実施して効果あり
	⑥原板不良の低減	静岡	○	規格合板作業室完成。目標管理にてPDCAの強化指導を行ってゆく
	⑦産廃業者への処理依頼状況	静岡	○	確実に実施している
		東京デポ	○	確実に実施している
	⑧最終処分先の直接確認	静岡	○	12月・3月に実施
		東京デポ	○	中間処理業者確認済
⑨産業廃棄物管理表交付等状況報告書提出	静岡	○	6月末で実施	
	東京デポ	○	6月末で実施	
化学物質	①PRTR物質の使用削減	静岡	○	削減の為、代替品を検討
環境対応	①グリーン商品の購入	静岡	○	事務担当者にて購入時に比較検討、継続中
	②RoHs・G環境製品の開発推進と環境アセスメントの活用	静岡	○	環境製品の開発は、その都度対応して、継続。環境アセスメントの活用もできている
	③再生材料の使用推進	静岡	○	推進継続中
その他	①教育	静岡	○	上期、下期に環境教育実施中
		本社	○	防災訓練実施。講習会実施。
		東京デポ・埼玉	○	消火器等の操作方法確認
	②環境情報	静岡	○	ポスターやEメール情報を掲示している
		本社	○	環境への取組の自己チェックを行なっている。
		東京デポ・埼玉	○	環境への取組の自己チェックを行なっている。
	③環境資格者の養成	静岡	△	ECO検定受験推奨中
	④工程改善合理化活動	静岡	○	レイアウト変更実施、作業の停滞及び 横持ちの短縮ロス低減を行う
	⑤予防処置提案件数	静岡	○	提案の活性化を図って行く
		本社	○	提案の活性化を図って行く
	⑥梱包用ベニア使用量削減	東京デポ・埼玉	—	特になし
		静岡	○	梱包用ベニア使用量調査実施。
○			実施中。	
○			仕入先候補を抽出した。	
○			返却実績 42枚	
○			分別実績 51枚	
○			検討中	
⑦ベニア正寸仕入による端材削減	○	実施中。		
⑧資材納入業者による通函利用の検討	○	仕入先候補を抽出した。		
⑨納入・運送業者へのパレット返却推進	○	返却実績 42枚		
⑩返品物の分別廃棄	○	分別実績 51枚		
⑪既存部材の流用	○	検討中		
⑫ホームページ環境関連情報掲載検討	本社	○	ホームページ改版案を検討	

※1 ……部署欄の「静岡」は静岡工場・品質管理部・設計開発室とします。

○……成果が出ていて活動良し △……活動しているが、成果が出ていない ×……活動不十分

※全項目、次年度も継続して取り組む。

ENVIRONMENTAL SAFEGUARDS ○環境保全

ニチガク製品の環境対応

■環境配慮型製品により、快適な室内環境を創出

ニチガクは、環境マネジメントシステムを構築・適用することにより、環境への取り組みの推進を実施しております。

材料においては、HSをはじめ各規制に適合したF☆☆☆☆のもの、再生材や廃材等を使用し、環境に優しく安全性の高い製品作りをしています。また、品質管理・品質保証に関する規格である、ISO9001及びJISマーク表示の認証を取得した企業です。環境省が策定したエコアクション21にも対応し、認証取得（静岡工場・開発部）しました。

また、各規格等に適合していることを証明する、使用材料の証明書、化学物質等安全データシート(MSDS)を用意しています。

■接着剤を使用しないMC工法

MC工法は、下地パネルの上にマグネットシートを接着テープで貼り、その上に表面材（黒板用の鋼板）を圧力で固定させる画期的な工法です。

マグネットシート、下地材を再利用して、表面材だけを何度でも貼り替えて分別リサイクルができる、3Rを考慮した環境にやさしい黒板です。接着剤を使用しないので、VOCの発生のおそれがなく安心です。

定期的リニューアル(3~5年)時は、表面材を交換する最小限の費用ですむので、コスト低減にもつながります。

■グリーン購入法適合商品

ニチガクでは、グリーン購入法をひとつの基準として、「法のため」ではなく、「人のため」、「地球のため」に優しいもの作りに取り組んでいます。黒板関連商品の90%以上の製品が、グリーン購入法に適合した優良商品・サイズを用意しています。

■各種認証登録



環境に配慮した生產品目の拡大 (グリーン購入法・RoHs、REACH対応商品等)

シリーズ	商品	サイズ	対象部品	対象材料	
アルミ枠ホワイトボード アルミホーロー表面	両面回転 脚付	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	-
	片面脚付	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	-
	壁掛け	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		2×3	ボード	パーチクルボード芯材	-
		1.5×2	ボード	パーチクルボード芯材	-
アルミ枠ホワイトボード スチール表面	両面回転 脚付	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	-
	片面脚付	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	-
	壁掛け	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		2×3	ボード	パーチクルボード芯材	-
		1.5×2	ボード	パーチクルボード芯材	-
アルミ枠ホワイトボード スチール表面	案内板	1.5×3	ボード	PS再生樹脂芯材	-
		1.2×3	ボード	PS再生樹脂芯材	-
樹脂枠ホワイトボード アルミホーロー表面	両面回転 脚付	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	ABS再生樹脂枠
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	ABS再生樹脂枠
	片面脚付	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	ABS再生樹脂枠
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	ABS再生樹脂枠
	壁掛け	3×6	ボード	PS再生樹脂芯材	ABS再生樹脂枠
		3×4	ボード	PS再生樹脂芯材	ABS再生樹脂枠
		2×3	ボード	-	ABS再生樹脂枠
		1.5×2	ボード	-	ABS再生樹脂枠
アルミ枠掲示板 eコルックス表面	両面脚付	3×6	ボード	PVC再生樹脂シート	パーチクルボード芯材
		3×4	ボード	PVC再生樹脂シート	パーチクルボード芯材
	壁掛け	3×6	ボード	PVC再生樹脂シート	-
		3×4	ボード	PVC再生樹脂シート	-
		2×3	ボード	PVC再生樹脂シート	-
樹脂枠掲示板 eコルックス表面	両面脚付	3×6	ボード	PVC再生樹脂シート	ABS再生樹脂枠
		3×4	ボード	PVC再生樹脂シート	ABS再生樹脂枠
	壁掛け	3×6	ボード	PVC再生樹脂シート	ABS再生樹脂枠
		3×4	ボード	PVC再生樹脂シート	ABS再生樹脂枠
		2×3	ボード	PVC再生樹脂シート	ABS再生樹脂枠
ビョーブ式掲示板	両面脚付		ボード	PVC再生樹脂シート	杉間伐材芯材
コンタクトボード	壁掛け		ボード	PP再生樹脂芯材	-
パーソナルボード	壁掛け		ボード	PE再生樹脂芯材	-
C社オリジナル品	壁掛け		ボード	ABS再生樹脂芯材	-
	両面脚付		ボード	杉間伐材芯材	-
アルティナ	両面脚付		ボード	PVC再生樹脂シート	パーチクルボード芯材
メタルライン	壁掛け		ボード	PE再生樹脂芯材	-
C社オリジナル品	衝立		ボード	パーチクルボード芯材	-
大型黒板類			ボード	合法性ベニヤ	杉間伐材芯
大型掲示板類			ボード	合法性ベニヤ	杉間伐材芯
電子黒板(ブランデー)			ボード	-	ABS再生樹脂枠
SMW			ボード	合法性ベニヤ	-
美撮る			ボード	PS再生樹脂芯材	-
アクティボ			ボード	LVL芯材	-

商品写真



黒板関連商品の90%以上が、グリーン購入法に適合

法規制遵守状況等のリスト

法規制等一覧表

法規制	責任部門	適用施設・対象	評価時期	チェック方法等	評価日	遵守結果
騒音規制法	静岡	騒音 第三種区域	2007/10/25届出改正変更の有無等	特定施設の届出(第三種) 周辺の騒音状況の確認	2019/12/18	12月 EA21推進委員会 適合
振動規制法	静岡	振動 第二種区域の1	2007/10/25届出改正変更の有無等	特定施設の届出(第二種) 周辺の振動状況の確認	2019/12/18	12月 EA21推進委員会 適合
悪臭防止法	静岡	藤枝市臭気指数15(有機溶剤)	適宜	敷地境界付近の確認	2019/12/13	EA21推進委員会 適合
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	静岡	接着合板施設(トルエン等)	年1回6月	申告書作成時に法改正を確認	2019/6/28	化学物質使用量チェック時 適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 等	静岡	廃棄物置き場 (委託契約書・マニフェスト伝票・表示)	都度	産廃業者より情報入手し法改正を確認	2019/11/19	12月 EA21推進委員会 適合
	東京デポ	廃棄物置き場 (委託契約書・マニフェスト伝票・表示)	都度	インターネット等で改正法を確認	2019/5/27	東京デポ EA21推進委員 適合
	静岡	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	年1回6月	役所より情報入手し法改正を確認	2019/6/27	報告書作成時 適合
	東京デポ	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	年1回6月	役所より情報入手し法改正を確認	2019/6/21	報告書作成時 適合
	静岡	認可処分場	年1回	推進委員会メンバーにて視察	2019/12/13	EA21推進委員会 適合
	東京デポ	認可処分場・中間処理	年1回	推進委員会メンバーにて視察	2019/8/27	EA21推進委員会 適合
フロン排出抑制法	静岡	業務用エアコン	年4回(6・9・12・3月)	簡易点検時・エアコン撤去時	2020/3/26	簡易点検時 適合
家電リサイクル法(フロン関連)	静岡	家庭用エアコン	適宜	エアコン撤去時	—	エアコン撤去時 適合
消防法	静岡	接着合板及び印刷室(危険物取扱者の立会いによる使用・消防設備点検実施)	毎年9月	消防署・設備業者より情報入手し法改正を確認	2019/11/7	消防設備点検実施時 適合
	東京デポ	消火器の設備及び点検	適宜	消火器設備の確認	2019/5/20	EA21推進委員会 適合
浄化槽法(10条・11条)	静岡	浄化槽の定期点検	適宜	点検時に法改正を確認	2019/7/30	最終点検時 適合
グリーン購入法	静岡	適合材料の選定及び適合製品の開発	年1回12月	設計開発室にて調査	2020/2/25	12月 EA21推進委員会 適合
JOIFA(合法性・持続可能性の証明に係わる事業者認定実施規程)	商品企画推進部	「静岡工場」黒板・白板	年1回	品質管理部に改版を確認	2019/9/25	本社ビル EA21推進委員 適合
RoHS指令	静岡	適合材料の選定及び適合製品の開発	都度	設計開発室にて調査	—	客先より要求があった時 該当なし
	商品企画推進部	「設計開発室」適合製品の開発	年1回	設計開発室に適合製品開発の有無を確認	2020/2/14	本社ビル EA21推進委員会 //
REACH-SVHC	静岡	適合物質の調査	都度	設計開発室にて調査	—	客先より要求があった時 //
	商品企画推進部	「設計開発室」適合製品の開発	年1回	設計開発室に適合製品開発の有無を確認	2020/2/14	本社ビル EA21推進委員会 //

環境関連法規への違反、訴訟の有無

＜本社、東京デポ、静岡工場・品質管理部・設計開発室、埼玉営業所＞

各事業所に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、2019年4月～2020年3月 までに違反はありません。

また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟・要望等はありません。

※水銀含有廃棄物は適正に処理しています。

2020年7月14日 エコアクション21事務局

代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 作業効率向上、仕事量管理による業務の平準化、工場水銀灯のLED化及び消灯励行等、エネルギー使用量、CO₂排出量の低減に効果が出ている。その他の項目についても、目標値を概ね達成する良好な結果を出す事が出来た。
2. 一部の化学物質については、環境負荷のより低い代替品への移行を実現したので、今後は他の薬品等についても置き換えを検討し、更なる排出量低減に努めたい。
3. 総物質投入量と廃棄物排出量対比による歩留りについて更なる向上を目指すと共に、廃棄物減量に取り組みたい。
4. 新型コロナウイルス感染症拡大により、人々の行動・コミュニケーション手段等の変化が定着し、テレワークによる業務、WEBによる顧客との打合せ等が進み「移動」にかかるCO₂排出等の環境負荷は減少する事が考えられる。今後は「ニューノーマル」（新しい行動様式）を前提とした企業活動及び環境に配慮した経営に取り組みたい。

2020年6月29日

代表取締役社長

吉田 朋弘